



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月12日

上場会社名 福留八ム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福原 治彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経理部長 (氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	19,668	1.1	74		1		25	
2020年3月期第3四半期	19,896	0.8	300		268		725	

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 286百万円 (%) 2020年3月期第3四半期 844百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	7.61	
2020年3月期第3四半期	217.40	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	17,153	4,409	25.7
2020年3月期	15,462	4,122	26.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 4,408百万円 2020年3月期 4,121百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	2.3	200		170		200		59.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	3,400,000 株	2020年3月期	3,400,000 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	62,932 株	2020年3月期	62,932 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	3,337,068 株	2020年3月期3Q	3,337,158 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ、企業・経済活動が大きく制限され非常に厳しい状況となりました。政府による各種政策の効果もあり、一部持ち直しの動きがみられるものの、景気回復の改善には至っておらず、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することによる消費マインドの落ち込みが予想されるなど依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、感染拡大に伴う消費行動や市場構造に変化が生じ、「巣ごもり消費」と称されるような内食需要が活発化する一方、11月以降の新型コロナウイルス感染者拡大に伴う営業自粛要請による外食需要の低迷で業務用商品が苦戦している状況は続いており、先行きへの不安からくる消費者の低価格・節約志向は厳しさを増し、依然として厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、あふれる味覚をもってお客様から選ばれ続ける存在となるべく努めてまいりました。新型コロナウイルス感染症対策としましては、従業員及び関係者の健康と安全を守ることを最優先とし、「FRA(福留ハム・リスクマネジメント・アクション)委員会」を適宜開催し、オフィスの分散化や衛生管理、さらにはリモート会議の活用など感染拡大防止策の強化を図り、事業リスクの最小化や事業活動の継続に取り組んでまいりました。また、今期を初年度とした「中期経営計画2021年3月期 - 2023年3月期」を策定し、初年度においては、「競争力向上のためのコスト構造改革」を重点施策として、最適な資源配分と業務の効率化、無駄の排除を通じた筋肉質なコスト構造への転換を進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、196億68百万円(前年同四半期比1.1%減)となりました。利益につきましては、営業損失は74百万円(前年同四半期は営業損失3億円)、経常損失は1百万円(前年同四半期は経常損失2億68百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は25百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失7億25百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業におきましては、リニューアルした「花ソーセージ」のCM放映に加え、商品詰め合わせセットやQUOカードが当たる「岡山昴工場1周年記念キャンペーン」を実施し、販売強化を図ってまいりました。売上高は、外食向け業務用商品が減少したものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う内食需要の高まりをうけ、「JAS上級あらびきポークウインナー」や「JAS特級あらびきポークウインナー」、昨年発売いたしました「あらびきKING」などのウインナー類や新商品「チーズ入り花ソーセージ」「花ソーセージ辛口風味」とバリエーションを増やしたオリジナル商品「花ソーセージ」シリーズなどのソーセージ類が好調に推移いたしました。また、「肉厚ハンバーグ」シリーズや「炭火焼きハンバーグ」などのハンバーグ類におきましても、量販店向けの販売が好調に推移し、売上高は増加いたしました。利益面につきましても、歳末商戦において、国産原料使用の「ロマンティック街道」シリーズや国産牛モモ肉使用の「ローストビーフ」さらには、家庭内用需要での「ハンバーグギフト」などが好調に推移したことに加え、生産性の改善やコスト削減努力などにより増加いたしました。

その結果、売上高は89億88百万円(前年同四半期比2.8%増)、セグメント利益(営業利益)は4億83百万円(前年同四半期比96.0%増)となりました。

食肉事業

食肉事業につきましては、内食需要の増大により国産豚肉の需要は増えたものの、外食需要は新型コロナウイルス感染拡大の影響により依然として低迷しており、食肉事業全体の取扱量は減少いたしました。売上高につきましては、国産豚肉は堅調に推移したものの、国産牛肉は外食事業の低迷や牛肉相場が大きく値を下げたことによる売上単価の低下により低調に推移したことや採算重視の販売に努めたことなどにより前年同四半期を下回りました。利益面につきましては、在庫の適正管理により余剰在庫の削減やコスト削減に取り組んだものの、国産豚肉相場の上昇に伴う仕入コストの増大や輸入牛肉・輸入豚肉における入船遅れの影響による物流費の上昇などにより前年同四半期を下回りました。

その結果、売上高は106億80百万円(前年同四半期比4.2%減)、セグメント損失(営業損失)は1億44百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)1億15百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ16億90百万円増加の171億53百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ13億89百万円増加の77億58百万円となりました。主な要因は、現金及び預金86百万円と受取手形及び売掛金12億98百万円の増加によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ3億1百万円増加の93億95百万円となりました。主な要因は、投資有価証券4億34百万円、リース資産30百万円及び無形固定資産74百万円の増加と建物及び構築物1億5百万円、機械装置及び運搬具1億15百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ14億3百万円増加の127億43百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ10億96百万円増加の87億2百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金6億4百万円、短期借入金4億51百万円の増加によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ3億7百万円増加の40億41百万円となりました。主な要因は、長期借入金2億34百万円、その他固定負債2億5百万円の増加と退職給付に係る負債98百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億86百万円増加の44億9百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金2億95百万円の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、2020年5月14日に公表いたしました業績予想の変更はしておりません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,512	2,598
受取手形及び売掛金	2,463	3,761
商品及び製品	1,050	993
仕掛品	48	45
原材料及び貯蔵品	267	319
その他	28	42
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	6,369	7,758
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,957	2,852
機械装置及び運搬具（純額）	975	860
土地	3,003	3,003
リース資産（純額）	127	158
建設仮勘定	-	9
その他	68	57
有形固定資産合計	7,133	6,941
無形固定資産	30	105
投資その他の資産		
投資有価証券	1,699	2,133
その他	369	365
貸倒引当金	△140	△151
投資その他の資産合計	1,929	2,348
固定資産合計	9,093	9,395
資産合計	15,462	17,153

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,075	2,680
短期借入金	4,623	5,074
未払法人税等	43	25
賞与引当金	165	81
その他	697	839
流動負債合計	7,605	8,702
固定負債		
長期借入金	1,372	1,607
役員退職慰労引当金	353	320
退職給付に係る負債	1,754	1,656
その他	252	458
固定負債合計	3,734	4,041
負債合計	11,340	12,743
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	△298	△324
自己株式	△80	△80
株主資本合計	3,815	3,790
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	373	668
退職給付に係る調整累計額	△67	△50
その他の包括利益累計額合計	305	618
非支配株主持分	0	0
純資産合計	4,122	4,409
負債純資産合計	15,462	17,153

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	19,896	19,668
売上原価	16,548	16,161
売上総利益	3,348	3,506
販売費及び一般管理費	3,648	3,580
営業損失(△)	△300	△74
営業外収益		
受取利息及び配当金	40	42
不動産賃貸料	44	44
補助金収入	-	44
その他	21	16
営業外収益合計	106	148
営業外費用		
支払利息	51	49
不動産賃貸費用	18	21
その他	3	4
営業外費用合計	74	75
経常損失(△)	△268	△1
特別利益		
固定資産売却益	144	-
特別利益合計	144	-
特別損失		
減損損失	-	4
投資有価証券評価損	24	-
特別損失合計	24	4
税金等調整前四半期純損失(△)	△148	△6
法人税、住民税及び事業税	19	19
法人税等調整額	557	-
法人税等合計	577	19
四半期純損失(△)	△725	△25
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△725	△25

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純損失(△)	△725	△25
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△110	295
退職給付に係る調整額	△9	17
その他の包括利益合計	△119	312
四半期包括利益	△844	286
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△844	286
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	8,747	11,149	19,896
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	8,747	11,149	19,896
セグメント利益又は損失(△)	246	△115	131

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	131
全社費用(注)	△431
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△300

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	8,988	10,680	19,668
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	8,988	10,680	19,668
セグメント利益又は損失(△)	483	△144	339

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	339
全社費用(注)	△413
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△74

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。